

思わず人に話したくなる

人生設計への真剣度は2倍? 「持家×金融教育経験者」VS 「賃貸×金融教育未経験者」

ライフプラン・マネープランの検討状況

三井住友トラスト・資産のミライ研究所（以下、「ミライ研」）では、20～60歳代の1万人を対象とした独自アンケート調査を毎年実施しています。ミライ研が本年1月に実施したアンケートの中では、将来の生活設計・資金計画の検討状況を伺いました。その結果、67.8%の方から「いずれも検討したことがない」という回答が戻つてきました〔図表1〕。

〔図表1〕 将來の生活設計・資金計画の検討状況（全世代平均/回答数：1万1197）
(%)

FPに将来の生活設計・資金計画について相談したことがある	6.6
(FP以外の) 金融機関や行政の職員などと、将来の生活設計・資金計画について相談したことがある	3.3
何歳でどんな人生イベントがあるか自分でシミュレーションした	11.5
これからの人生でいくらくらいお金がかかるか(支出)自分で計算してみた	14.8
これからの人生での収入・支出を計算して、そのやりくりも自分で計算してみた	12.7
その他	0.4
将来の生活設計・資金計画について検討したことない	67.8

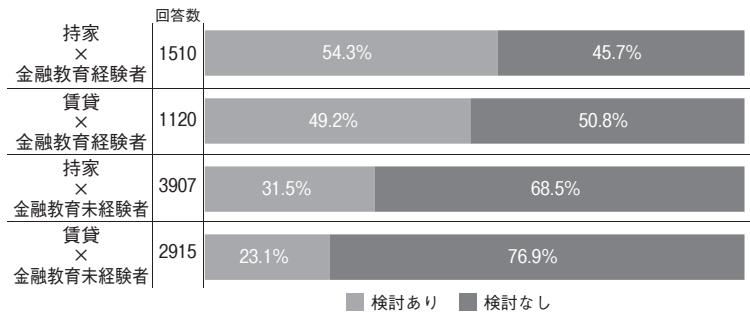
出所：三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2022年)を基に作成

老後資金の自助努力やDC法の改正などもあり、ライフプラン・マネープランの重要性が世の中的にも語られるようになりましたが、実際の行動に移している人はまだ半数弱といった状況がうかがえます。

「住宅購入」が考えるきっかけ？

先ほどの設問に関して、回答者を「住まいは持家（含む住宅ローン保有者）か賃貸か、金融教育の経験があるかないか」で4パターンに分類し、回答結果を確認したところ、将来の生活設計・資金計画について何らかの検討をしている比率が最も高い群が「持家×金融教育経験者」で54.3%、最も低い群が「賃貸×金融教育未経験者」で23.1%となり、約2倍の差がつく結果となりました〔図表2〕。

〔図表2〕 持家・賃貸別
将来の生活設計・資金計画の検討状況（全世代平均）



出所：三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2022年)を基に作成

もちろん、「賃貸×金融教育未経験者」の中にも、適切に検討されている方はおられます。その一方で、全世代平均から読み取れる傾向として、「持家である（本アンケート調査では、持家の方のうち、購入時に住宅ローンを利用された方は78.6%）」、すなわち住宅ローンとして多額の借り入れを行うというライフイベントを経験したことが、将来について考える際の大きな後押しとなっている点が挙げられます。

さらに興味深い傾向は、「持家であっても賃貸であっても、金融教育の経験が検討状況に前向きな効果を与えている」と言えそうな点です。

人生100年時代、個々人によるライフイベントに対応したマネープランの策定や検討は、今後ますます重要性が高まってくるでしょう。「持家派」「賃貸派」を問わず、早い段階からの金融リテラシーの習得や金融教育の受講機会などが、ファイナンシャルウェルビーイング(FINANCIAL WELL-BEING)への近道となってくると思われます。

(三井住友トラスト・資産のミライ研究所

研究員 矢野 礼菜)